

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年8月5日
【四半期会計期間】	第17期第1四半期（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）
【会社名】	ソーシャルワイヤー株式会社
【英訳名】	SOCIALWIRE CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 庄子 素史
【本店の所在の場所】	東京都港区芝浦三丁目9番1号芝浦ルネサイトタワー6階
【電話番号】	03-5363-4872
【事務連絡者氏名】	経営企画部 副部長 重廣 秀明
【最寄りの連絡場所】	東京都港区芝浦三丁目9番1号芝浦ルネサイトタワー6階
【電話番号】	03-5363-4872
【事務連絡者氏名】	経営企画部 副部長 重廣 秀明
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第16期 第1四半期 連結累計期間	第17期 第1四半期 連結累計期間	第16期
会計期間	自 2021年4月1日 至 2021年6月30日	自 2022年4月1日 至 2022年6月30日	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日
売上高 (千円)	1,166,665	1,128,523	4,630,337
経常利益又は経常損失 ( ) (千円)	20,251	97,205	137,592
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失 ( ) (千円)	4,712	88,321	28,671
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	14,619	85,231	46,132
純資産額 (千円)	1,047,576	978,914	1,064,145
総資産額 (千円)	5,226,931	5,370,670	4,977,579
1株当たり四半期(当期)純利益又は1株当たり四半期純損失 (円) ( )	0.78	14.79	4.79
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	19.7	18.0	21.0

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 第16期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 第17期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第16期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言・まん延防止等重点措置の解除に伴い景気持ち直しの動きがみられるものの、急速な円安・ドル高の進行に加え、原材料価格の高騰による物価上昇等、経済の先行きに係る不確実性は依然として高い状況です。

このような市場環境のもと、当社グループは「全ての魅力にスポットライトが当たる社会へ」を新たなコーポレートビジョンとし、付加価値の追求による企業価値の向上による高付加価値経営を軸とした新経営方針のもと、コロナ禍以降のニーズ・市場の成長を見据えたうえで戦略を策定し、成長を推進してまいりました。

この結果、当第1四半期連結会計期間末の財政状態及び当第1四半期連結累計期間の経営成績は以下のとおりとなりました。

#### 財政状態

##### (資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産の額は5,370,670千円と、前連結会計年度末に比べ393,090千円の増加となりました。資産の増加の主な要因は、シェアオフィス事業における福岡拠点の内装工事等の計上により、建物が297,523千円増加し、工具、器具及び備品69,526千円が増加したことによるものであります。

##### (負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債の額は4,391,755千円と、前連結会計年度末に比べ478,321千円の増加となりました。負債の増加の主な要因は、長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む。）の返済により83,970千円減少した一方、未払金が283,409千円増加したこと、及び短期借入金が200,000千円増加したことによるものであります。

##### (純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産の額は978,914千円と、前連結会計年度末に比べ85,231千円の減少となりました。純資産の減少の主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失88,321千円を計上したこと等によるものであります。

#### 経営成績

当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高1,128,523千円（前年同期比3.2%減）と、減収となりました。また、利益につきましては、営業損失109,087千円（前年同期は営業利益28,255千円）、経常損失97,205千円（前年同期は経常利益20,251千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は88,321千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益4,712千円）となりました。

各セグメント別の経営成績は、以下のとおりです。なお、以下の数値はセグメント間の取引消去後となっております。

##### (デジタルPR事業)

デジタルPR事業は、企業や官公庁・団体等に対して、製品やサービス・事業等に関するプレスリリース配信サービス、新聞・雑誌・WEB・SNS等各種メディアの調査・報告サービス、インフルエンサーPRサービスを運営しております。

当第1四半期連結累計期間において、クリッピングサービスについては、前年度に引き続きデジタル案件が牽引し案件数は増加（前年同期比10.1%増）しました。一方で、リリース配信サービスは、大型連休前後の動きが軟調だったことから、配信数、利用社数ともに減少（それぞれ前年同期比3.7%減、前年同期比3.5%減）となりました。また、インフルエンサーPRサービスは、社内教育によるクリエイティブ向上等の付加価値向上施策は順調に進捗したものの、一方で営業活動が低迷したことから、案件数は減少（前年同期比18.2%減）しました。

この結果、デジタルPR事業の売上高は624,371千円（前年同期比6.0%減）となり、セグメント利益は87,826千円（前年同期比45.6%減）となりました。

(シェアオフィス事業)

シェアオフィス事業は、アジア主要7都市(東京(新宿2拠点、六本木、青山、渋谷、新橋、日本橋)、横浜、仙台、福岡、シンガポール、インドネシア( )、タイ)でシェアオフィスサービス、クラウド翻訳サービスを運営しております。

主要サービスであるシェアオフィスについては、2022年1月に日本橋拠点、2022年6月に福岡拠点を開設いたしました。当第1四半期連結累計期間において、新型コロナウイルスとの共生や防疫措置緩和の広がりや認知に加え、拠点数の増加もあり、国内拠点について累積稼働席数は増加(前年同期比17.4%増)となった一方、費用面では新規拠点開設により主に地代家賃及び減価償却費が増加しました。海外拠点については、一昨年に決定したフィリピン及びインド拠点の撤退に加え、前年度にベトナム拠点の撤退、タイ拠点の減床を実施したこと等により、累積稼働席数は大幅に減少(前年同期比61.2%減)いたしました。

この結果、シェアオフィス事業の売上高は504,152千円(前年同期比0.4%増)となり、セグメント損失は104,272千円(前年同期は17,170千円の損失)となりました。

( )インドネシアはフランチャイズによる運営です。

(2) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(3) 経営方針・経営環境等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営環境等について重要な変更はありません。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 3【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,600,000
計	17,600,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (2022年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2022年8月5日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	6,108,600	6,108,600	東京証券取引所 グロース市場	単元株式数 100株
計	6,108,600	6,108,600	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2022年4月1日～ 2022年6月30日	-	6,108,600	-	354,789	-	296,789

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

##### (6)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容を確認できず記載することができませんので、直前の基準日である2022年3月31日の株主名簿により記載をしております。

【発行済株式】

2022年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 136,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,969,900	59,699	-
単元未満株式	普通株式 2,700	-	-
発行済株式総数	6,108,600	-	-
総株主の議決権	-	59,699	-

(注)「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式6株が含まれております。

【自己株式等】

2022年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ソーシャルワイヤー株式会社	東京都港区芝浦三丁目9番 1号芝浦ルネサイトタワー 6階	136,000	-	136,000	2.22
計	-	136,000	-	136,000	2.22

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	898,723	980,964
受取手形、売掛金及び契約資産	295,069	258,198
その他	233,127	270,811
貸倒引当金	3,723	3,193
流動資産合計	1,423,198	1,506,781
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,830,327	2,127,851
工具、器具及び備品	482,086	551,612
使用権資産	400,683	424,015
その他	61,519	63,932
減価償却累計額	1,140,386	1,248,746
有形固定資産合計	1,634,231	1,918,665
無形固定資産		
のれん	118,800	111,068
ソフトウェア	154,358	139,694
その他	3,512	17,897
無形固定資産合計	276,672	268,661
投資その他の資産		
差入保証金	1,459,796	1,457,561
その他	266,327	306,595
貸倒引当金	82,646	87,595
投資その他の資産合計	1,643,477	1,676,561
固定資産合計	3,554,381	3,863,888
資産合計	4,977,579	5,370,670

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
短期借入金	-	200,000
1年内返済予定の長期借入金	415,330	437,081
未払金	272,544	555,953
未払法人税等	16,688	6,943
契約負債	526,686	524,329
リース債務	95,387	96,682
その他	452,983	419,001
流動負債合計	1,779,620	2,239,992
<b>固定負債</b>		
長期借入金	1,329,833	1,224,111
資産除去債務	603,985	716,281
リース債務	143,040	121,804
その他	56,955	89,565
固定負債合計	2,133,813	2,151,763
<b>負債合計</b>	<b>3,913,434</b>	<b>4,391,755</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	354,789	354,789
資本剰余金	294,556	294,556
利益剰余金	474,570	386,248
自己株式	83,906	83,906
株主資本合計	1,040,010	951,688
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	63	63
為替換算調整勘定	8,774	16,842
その他の包括利益累計額合計	8,837	16,905
新株予約権	2,712	2,712
非支配株主持分	12,585	7,607
<b>純資産合計</b>	<b>1,064,145</b>	<b>978,914</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>4,977,579</b>	<b>5,370,670</b>

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	1,166,665	1,128,523
売上原価	647,070	685,212
売上総利益	519,595	443,310
販売費及び一般管理費	491,339	552,398
営業利益又は営業損失( )	28,255	109,087
営業外収益		
受取利息	308	316
受取手数料	223	150
リース解約益	-	17,097
その他	645	2,079
営業外収益合計	1,177	19,642
営業外費用		
支払利息	8,299	5,884
その他	880	1,876
営業外費用合計	9,180	7,761
経常利益又は経常損失( )	20,251	97,205
特別利益		
新株予約権戻入益	254	-
特別利益合計	254	-
特別損失		
減損損失	-	29,203
特別損失合計	-	29,203
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	20,506	126,408
法人税、住民税及び事業税	10,946	2,410
法人税等調整額	3,856	35,332
法人税等合計	14,803	32,922
四半期純利益又は四半期純損失( )	5,703	93,486
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失( )	990	5,164
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( )	4,712	88,321

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失( )	5,703	93,486
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	-	-
為替換算調整勘定	8,915	8,255
その他の包括利益合計	8,915	8,255
四半期包括利益	14,619	85,231
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	13,252	80,253
非支配株主に係る四半期包括利益	1,366	4,977

## 【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる当第1四半期連結財務諸表への影響はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

当社においては、機動的かつ安定的な資金調達枠を確保することで、手元資金の減少を防ぎ、財務基盤の安定を図るため、取引銀行2行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
当座貸越極度額	400,000千円	400,000千円
借入実行残高	-	200,000
差引額	400,000	200,000

(四半期連結損益計算書関係)

減損損失

前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

場所	用途	種類	減損損失
タイ	シェアオフィス事業用資産	建物、工具、器具及び備品、使用権資産	23,162千円
東京都港区	シェアオフィス事業用資産	建物、工具、器具及び備品	6,040千円

当社グループは、原則として継続的に収支の把握を行っている管理会計上の区分を考慮し、資産のグルーピングを行っております。

シェアオフィス事業用資産については、新型コロナウイルス感染拡大等による影響を受け、シェアオフィス事業の撤退や一部フロアの賃貸借契約の解約を決定した拠点について、将来の回収可能性を検討した結果、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、各資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しており、将来の使用見込みがなくなった又は将来キャッシュフローが見込めないため、使用価値を零とみなしております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりです。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
減価償却費	108,796千円	88,615千円
のれんの償却額	7,732	7,732

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当金 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月18日 定時株主総会	普通株式	15,078	2.50	2021年3月31日	2021年6月21日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の  
未日後となるもの  
該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動  
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の  
未日後となるもの  
該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

「セグメント情報」

前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	デジタルPR 事業	シェアオフィス 事業			
売上高					
外部顧客への売上高	664,692	501,973	1,166,665	-	1,166,665
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	489	489	489	-
計	664,692	502,463	1,167,155	489	1,166,665
セグメント利益又は損失 ( )	161,560	17,170	144,389	116,134	28,255

(注)1. セグメント利益又は損失( )の調整額 116,134千円は、主に報告セグメントに帰属していない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	デジタルPR 事業	シェアオフィス 事業			
売上高					
外部顧客への売上高	624,371	504,152	1,128,523	-	1,128,523
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	414	414	414	-
計	624,371	504,566	1,128,938	414	1,128,523
セグメント利益又は損失 ( )	87,826	104,272	16,446	92,641	109,087

(注)1. セグメント利益又は損失( )の調整額 92,641千円は、主に報告セグメントに帰属していない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「シェアオフィス事業」セグメントにおいて、新型コロナウイルス感染拡大等による影響を受け、シェアオフィス事業の撤退や一部フロアの賃貸借契約の解約を決定した拠点について、将来の回収可能性を検討した結果、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては29,203千円であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他	合計
	デジタルPR 事業	シェアオフィス 事業	計		
国内	663,827	441,915	1,105,743	-	1,105,743
国外	864	60,057	60,921	-	60,921
顧客との契約から生じる収益	664,692	501,973	1,166,665	-	1,166,665
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	664,692	501,973	1,166,665	-	1,166,665

(単位:千円)

	報告セグメント			その他	合計
	デジタルPR 事業	シェアオフィス 事業	計		
リリース配信	287,516	-	287,516	-	287,516
クリッピング	201,458	-	201,458	-	201,458
インフルエンサーPR	175,717	-	175,717	-	175,717
シェアオフィス	-	438,836	438,836	-	438,836
その他	-	63,136	63,136	-	63,136
顧客との契約から生じる収益	664,692	501,973	1,166,665	-	1,166,665
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	664,692	501,973	1,166,665	-	1,166,665

当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他	合計
	デジタルPR 事業	シェアオフィス 事業	計		
国内	624,371	466,523	1,090,895	-	1,090,895
国外	-	37,628	37,628	-	37,628
顧客との契約から生じる収益	624,371	504,152	1,128,523	-	1,128,523
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	624,371	504,152	1,128,523	-	1,128,523

(単位:千円)

	報告セグメント			その他	合計
	デジタルPR 事業	シェアオフィス 事業	計		
リリース配信	292,596	-	292,596	-	292,596
クリッピング	218,293	-	218,293	-	218,293
インフルエンサーPR	113,481	-	113,481	-	113,481
シェアオフィス	-	442,693	442,693	-	442,693
その他	-	61,458	61,458	-	61,458
顧客との契約から生じる収益	624,371	504,152	1,128,523	-	1,128,523
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	624,371	504,152	1,128,523	-	1,128,523

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失( )	0円78銭	14円79銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( )(千円)	4,712	88,321
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( )(千円)	4,712	88,321
普通株式の期中平均株式数(株)	6,013,849	5,972,594
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	-	-
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	-	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

- (注) 1. 前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 2. 当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年8月1日

ソーシャルワイヤー株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ  
東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 鈴木 登樹男

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 池田 太洋

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているソーシャルワイヤー株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ソーシャルワイヤー株式会社及び連結子会社の2022年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. X B R Lデータは四半期レビューの監査対象には含まれません。